

監修 厚生 省
製作 母と子の桜映画社
校賛 中外製薬株式会社
校力 大阪府衛生奉仕婦人団体
吹田母子会

推せんと言葉

田波幸男

先手保健文化賞をうけた吹田母子会をモデルに保健地区組織活動を根本にふれて苗こうとする劇映画「たくましき母親たち」が製作されたことは大へん心づよいことである。

「さようなら蚊とはえさん」をつくった経験から、今度はその姉妹篇を製作したいと考えだったが、これに對し私どもは、次のような注文を出した。

一、今日では蚊とはえだけの狭い視野に陥つて單に役所の下請けにならない、生活のさまざまな向題を綜合的に自主的に取上げうる地区組織活動に發展してきているし、それがのぞましい。

二、組織は自主性のあるものであつてほしい。單に保健所等役所の手足になるのではなく、役所

小学校の身体検査でPTAの母親たちが手伝っている、保健所長の三山があらわれて、一同に於て児童の体位は全国的に見て低い、乳幼児死亡率が高い、皆さんは子供の健康を守る母としてどうぞ保健所の活動にも助力して頂けないものだろうか、と訴えた。

日本肺炎で長女を亡くしている野村やすはすぐ組織をつくろうという気もちになるのだが、仲よしの小谷よねは「偉い人の話は予算が足らんさかい奉仕せい。寄附金出せ」にきまつてゐ、と相手にしない。PTA副会長の本多芳枝は、かんじんなのは母親たちの気もちだと、一足とびに会

は、毎夜一軒々々訪ねて話し合つてみた。いろいろ問題も苦勞もあつたが、子ども健康を守る母親のグループ「母子会」が、芳枝ややす、よねたちをふくむ狭い地区で唄々の声をあげたのだつた。

最初の活動は、利用者の少かった保健所の乳幼児相談日に協力したことだった。芳枝たちは、場所を遠い保健所から町内の皆が来やすい処に変え、忙しいひとのために、は會員が赤坊を抱いてきたり、代りに店番までしてやるといった調子で、三山も

舌をまく盛況だった。しかも、股関節脱臼の子が発見されたりしてお母さんたちの関心もぐつと高まった。しかし、家庭の主婦が外で活動するとなると障害はいろいろあつた。全く理解のない三谷よねの夫を、皆で苦心して活動の中にひっぱりこんだり、母子会の活動が活発になると保健所がデントコ舞いになり、職員からも苦情が出て三山も頭をかかえるような場面が連続した。

一方、母子会の精力的な活動は、蚊とハエの駆除、物資あつせん、寄生虫駆除と多目的にひろがつて行つた。家庭よりほか世間を知らなかつた若い母親たちは、目ざましく成長した。よいことをしているのだという確信がみんなにあつた。保健所も市役所も下から突きあげられる始末だつた。向慮もひつきりなしに起きた。三山も、これはどんなでもない鬼ツ子だつたわいともてあましてきた。

結核の住民検診は市の衛生部にとつても保健所

を下から突きあげて活用する形がのぞましい。
三、固定したリーダーがいるのではなくて、みんながリーダーシップをとる。役員もほとんど代りながら、誰がなつてもうまく行くような保健地区組織を取り上げてほしい。
以上のような推題で、シナリオには非常に苦心されたようだが、私どもの気もち・新しいねらいは実によく生かされて、しかも大へん面白いものになった。

保便 福祉地区組織の育成も叫ばれている今日
かつて「蚊」とはえ取除三カ年運動」のへき頭に傑
作「百人の陽気な女房たち」を生み出したスタツ
フによつて、再び「たくましき母親たち」が製作
されたことは偶然ではないようにおもふ。姉妹篇
といつても、前のは三巻、こんどは五巻だからい
わばこの三年間にたくましく成長したお姉さんにま
みえるようであることに楽しみである。皆さんにも
大いに期待をもつて頂き、全国各地でこの映画を
徹底的に利用されるようお願いしたい。

にとつても最も大きな仕事だったが、これまでこの市の受診率は三〇。％しかなかった。芳枝たちはこれを出来ることなら一〇。％に高めなければならぬとおもつた。また、住検がきつかけで母子会（組織）が全市に拡大される機運も生れてきた。しかし、××小学校の地区には別の婦人団体が古くからあつた。その幹部たちは、自然芳枝ややすの反対派になつた。住民検診の直前に役員の変更があつた。規約では役員の任期は一年限りになつたが、芳枝は住民検診に全市民を動員するという初の大仕事とようやくここまで来た母子会組織を守るために留任しなければならぬと考えやすは新しい役員をみんなが助けて行くべきだと主張した。

役員改選の総会は、留任をのぞむよね達多数の熱心な会員と、全市の母親を把握できる会長・書記長の新たな送出を主張する新会員とで、激しく対立した。やすは「わてらの会はみんなガリデーシツプとる会や」と芳枝を友情こもつた説得で踏み切らせた。そして前役員は責任をもつて新役員を助けるという条件で、拍手をもつて辞任は認められ、芳枝は副会長としてもう一期新しい会長の下で働くことになり、やすは地区に帰つて一會員として精一ぱい働くことを誓うのだった。

全く一新された支部、本部の役員の指導で、直ちに一〇〇%を目ざす住民検診活動は実に徹底的に行われた。その結果、受診者の数は市当局の予想をはるかに越えて八〇%に達した。会場は受診者をさばききれなくて混乱に陥つた。しかし、母子会の実力を知っている三山は、ひそかに府衛生部や新聞社にレントゲン車の応援を頼んであった白いクリニックカーの巨体がぎざぎざ校庭に入つてきたときは、長い行列をつくつた市民も整理に大童の母子会の母親たちも歓呼の声をあげた。その中で、三山と芳枝は固い握手をかわした。

往診の大仕事を通して、新しい役員もなかなかやるものだということを会員たちも知った。

母子会は、事務所を忙しすぎる保健所の中から独立した新しい場所にもつた。それを記念して、今日は母親たちの買物コンクールが新事務所をスタートラインに行われてた。

画期的な大撮影

ロケーションの場所、大阪府吹田市は、今年は大阪気象台開設以来といわれる猛暑だった。市内のロケは連日三十八度を越え、そのうえ保健所等室内撮影はさらに密閉して相当量のライトを使うので実に四十五度を越え、保健所の火災報知機が鳴り出すようなこともあった。

しかも今回の撮影は、住民検診、乳幼児相談、寄生虫の集団駆除、役員改選の総会場面等々、大衆動員がつづき、映画に出演した母子会員も八百人を越え、幾日も出た人もあるから延数千人に達するといふものだった。脚本上春光のシーンを撮るときなど、前記の暑さの中で毛糸のセーターを着て貰ったり帯つきの着物だったりで文字通り最高の熱演であった。

母子会も、元書記長の畑さんが製作委員長になつてほんとうによくやつて下さった。組織のつよさを痛感した。しかし、撮影が本ものの住民検診といつしよに、役員も代ったばかりなので、流石の母子会も悲鳴をあげたこともあった。スタッフも全員全身アセモだらけになりながら一丸となつて獅子奮迅して感銘を与えた。

吹田保健所、吹口所長以下、日帯の忙しいお仕事の中で本当によくやつて下さったし、府の衛生部にも感謝しなければならぬ。

また、これだけのスケールの大きな地方ロケをこつこつと作品によくある地元の経済的な援助を乞わずに何とか踏み切れたのは、中外製薬の上野社長、長谷川氏によるもので、合わせて記して感謝の意を表したい。

スタッフ

製作 柳村山英
脚本 大沢治
監督 金子北次
撮影 金子精吾
照明 佐藤昌吾
録音 八巻勝道
編集 加藤善行
助監督 沼崎一
製作主任 沢登祥恵

配役

野村やす 山田桂子 (B K)
小谷よね 新屋英子 (B K)
本多芳枝 渡辺富美子 (B K)
三山保健所長 永野達雄 (B K)
同総務課長 小倉徳七 (B K)
婦人会の幹部 松下みち子 (B K)
勝田久子 川越茂子 (B K)
片岡菊子 山辺清子 (B K)
小谷太吉 柳川義孝 (B K)
市の衛生課長 新海義孝 (B K)
お津江 山崎みち子 (B K)
美津江 山崎みち子 (B K)
その他 山崎みち子 (B K)

俳優 十五名
母子会員 八〇〇名登場

映画社の主な作品

「百人の陽気な女房たち」 3巻
「さようなら蚊とばえさん」 2巻
「今どきの嫁」 5巻
「お姉さんといっしょ」 6巻
「お母さんの幸福」 5巻
「小さな仲間」 5巻
「海ツ子山ツ子」 8巻
「おやじの日曜日」 3巻
「僕わかつてる」 5巻
「愛することと生きる」 5巻

長サ・五巻 (映写時間 約五十分)
定価・十六ミリ版 九万五千円